

「平成24年度～運動部活動指導者講習会～」報告

これからの運動部活動の在り方

教諭 石 垣 裕 介

1. 期日 平成24年5月18日（金） 10:00～16:15
2. 場所 秋田県総合教育センター
3. 対象 中学校・高等学校教諭30名（運動部活動対象者）
4. 目標 運動部活動の望ましい在り方、運営上の留意点等の理解と、危機管理についての実践力を養う。
5. 内容 ①運動部活動経営の実際（講義・協議）
②運動部活動指導・運営上の留意点（講義）
③運動部活動での事故防止と応急手当（講義・実習）
6. 講義・協議の詳細
 - ◆小規模校では、部員の確保が最大の課題となっている。特に、サッカーやラグビーなどでは、大会への出場校が年々減ってきている。
 - ◆少子化が進む中で、小学校や中学校スポーツの在り方が変わってきている（学校をまたいだ地域クラブチームの増加など）。これまでのように、すべての生徒に一律に同じような指導をしていたのでは対応が難しくなる。
 - ◆保護者との連携に課題を抱えている。すべての保護者に一律に理解を得ることは現実には困難である。生徒・保護者に迎合するのではなく、信念を持って指導にあたることこそが今この時代だからこそ必要ではないか。
 - ◆様々なアレルギーや持病を抱える生徒が年々増えてきている。発症時の適切な対応まで、顧問は理解しておく必要がある。
 - ◆熱中症については各校での校内研修等を通じてかなり共通理解が図られてきているが、アナフィラキシーショックの対応についてはまだ全県的に理解が不十分である。
7. 感想 中学校、高校ともに、急速に進む少子化への対応策を迫られているようであった。食物アレルギーやアナフィラキシーショックについては、対岸の火事と考えずにすべての職員が知識を持つべきであると感じた。